

ドローン空撮 製作力競う

美濃市で13チームが大会

第2回美濃市ドローン空撮大会が11日、同市で始まった。プロアマ問わず全国各地から集まった13チームが27日まで、市の秋のプロモーション動画の製作に取り組む。最優秀賞のチームは市公認のプロモーションビデオ製作権と製作費が得られる。(佐名妙予)



旧名鉄美濃駅で撮影するチーム＝美濃市広岡町

最優秀賞に市公認PRビデオ撮影権

市が主催し、同市曾代のドローンミュージアム&パークのを手掛けるROB OZ(ロボット)、本社恵那市が運営する。

チームは企業、個人、グループなどで、今回は中学生も参加。各チームは市が撮影許可を得るなどした市内10カ所以上が掲載されたリストを基に撮影し、音楽や字幕なども加えて3分前後の動画にまとめる。動画の提出期限は27日昼。前回は2日間で撮影、編集を終えるハードスケジュールだったため、今回は製作期間を延ばした。

ドローンミュージアム&パークみでの開会式後、各チームは各所に出向いた。総合建設コンサルタントの三栄コンサルタント(岐阜市)の若手をつくる「チームSANEI」は、旧名鉄美濃駅などで撮影。チームの高橋健太さんは「世界に美濃市の魅力を発信する作品を作りたい」と

話した。

27日午後1時から審査を兼ねた上映会を同市常盤町の市健康文化交流センターで開催。入場無料で、来場者は作品への投票権も得られる。